

## チリ政治情勢報告（3月）

平成29年4月

### 1. 概要

（1）内政では、与党会派「新多数派」のゴイック上院議員（キリスト教民主党（DC）党首）、野党会派「Chile Vamos」のピニェラ前大統領が新たに大統領選挙への立候補を決定した。

（2）外交では、ビニャ・デル・マルにおいて「太平洋同盟とアジア・太平洋諸国とのハイレベル対話」が開催され、日本から藺浦外務副大臣、越智内閣府副大臣、中川経産省大臣政務官が出席した。

（3）4月3日発表のAdimark GfK社調査による3月のバチェレ大統領の支持率は25%（前回比+2ポイント）、不支持率は71%（前回比-3ポイント）であった。

### 2. 内政

#### （1）次期大統領選挙に向けた与野党各会派の動き

##### ア 与党会派「新多数派」の動き

（ア）3月11日、ゴイック・キリスト教民主党（DC）党首（上院議員）が同党の大統領候補として立候補する意向を正式に発表した。ただし、与党会派「新多数派（Nueva Mayoría）」が7月2日に実施する予備選挙に参加するか、予備選挙に参加せずに11月の大統領選挙に立候補するかは検討中。

（イ）社会党（PS）では、これまでインスルサ元OAS事務総長及びアトリア弁護士が立候補の意向を表明しており、党としての候補者を1名に絞るための党内選挙を実施予定であったが、4月1日に行われた党執行部の投票において、党内選挙の実施に反対する票が賛成票を上回ったことから、党内選挙の中止が決定された（党執行部において、候補者二名がいずれも有力な大統領候補となり得ないとの判断がされたためと見られる）。これに伴い、「イ」元OAS事務総長及び「ア」弁護士のいずれも大統領選挙への立候補辞退を決定。自党からの候補者がいなくなったことに伴い、PSは、4月9日にギジェル上院議員（無所属。急進社会民主党（PRSD）が本年1月に大統領候補として擁立）をPRSDと共に支持することを党中央委員による秘密投票にて決定。4月10日、PSの支持が得られなかったことから、「ラ」元大統領は大統領選挙への立候補辞退を決定した。

##### イ 野党会派「Chile Vamos」の動き

（ア）21日、ピニェラ前大統領が本年11月に行われる大統領選挙への立候

補を正式に決定し、24-25日に行われた独立民主同盟党（UDI）及び国民革新党（RN）の党集会において両党とも同前大統領を野党会派「Chile Vamos」の大統領候補として支持することを決定した。21日に行われた式典で演説した「ピ」前大統領は、次期大統領選挙では、現政権の誤りを継続するのか、軌道修正し、団結と前進のための道筋を再び探すのか問われることになることと述べ、与党会派「新多数派」の取り組みについて強く批判した。また、大統領として選出された場合に優先的に取り組む政策として①雇用創出及び経済発展、②犯罪及び薬物密売対策、③教育、④保健、⑤年金制度の改善の5分野を挙げた。

（イ）野党会派からは、「ピ」前大統領のほかにもオサンドン上院議員（無所属、昨年RNを離党）、フェリペ・カスト下院議員（政治発展党（Evopoli））が大統領選への立候補を表明しており、7月2日の予備選挙で統一候補を選出する方向で調整が進められている。

## （2）運輸通信大臣及び環境大臣の交代

### ア 運輸通信大臣の交代

14日、ゴメス＝ロボ運輸通信大臣が辞任した。辞任理由について「ゴ」大臣は「個人的な理由によるもの」とだけ述べているが、サンチャゴ市内の公共交通機関の運用改善が見られない等の批判等も背景にあるとの見方もある。後任として、同日就任したタピア新運輸通信大臣は、2004年に運輸通信省に入省後、運輸次官官房法務部部長等、省内での様々な役職を歴任。

### イ 環境大臣の交代

20日、バデニエル環境大臣が辞任した。辞任理由について「バ」環境大臣は、3月11日に大統領選挙に立候補する意向を表明したゴイック上院議員（キリスト教民主党（DC）党首）の選挙対策チームに総合コーディネーターとして加入するためとしている。なお後任として、これまで環境次官を務めていたマルセロ・メナ氏が新環境大臣に就任した。

## （3）上下両院議長団の交代

上下両院議長団の任期満了を受け、21日に上院議長団、22日に下院議長団が交代したところ、新議長団は以下のとおり（両院議長団の任期は1年となっており、政党間協議により選出される）。

### ア 上院議長団

- （ア）議長：アンドレス・サルディバル（DC：キリスト教民主党）
- （イ）副議長：ギド・ジラルディ（PPD：民主主義のための党）

## イ 下院議長団

- (ア) 議長：フィデル・エスピノサ（PS：社会党）
- (イ) 第一副議長：エンリケ・ハラミージョ（PPD）
- (ウ) 第二副議長：ホルヘ・サバグ（DC）

### (4) 社会党（PS）における新党首の選出

3月26日、社会党（PS）において任期満了に伴う党内選挙が実施され、約2万5千人のPS党員による投票の結果、新たな党中央委員として112名が選出された。4月9日に行われた新体制下での党中央委員会では、112名の中から新たにエリサルデ元内閣官房長官が新党首に選出された（112名の党中央委員による投票で新党首を決定）。「エ」新党首は、2013年にバチェレ大統領（当時大統領候補）の選挙対策チームでスポークスマンを務め、現政権が発足した2014年3月から2015年5月まで内閣官房長官。

## **3. 外交**

### (1) 太平洋同盟とアジア・太平洋諸国とのハイレベル対話の開催

14-15日、当国ビニャ・デル・マルにおいて太平洋同盟とアジア・太平洋諸国とのハイレベル対話が開催され、日本から藺浦外務副大臣、越智内閣府副大臣、中川経産大臣政務官が出席し、その他14カ国（TPP署名国、太平洋同盟及び中国・韓国）の代表者が出席したところ、概要は以下のとおり。

#### ア 太平洋同盟閣僚会合（14日）

(1) 14日に開催された太平洋同盟閣僚会合には、加盟4カ国の外相及び貿易大臣が出席。今般会合では、太平洋同盟とアジア太平洋諸国の自由貿易協定交渉を促進するために、太平洋同盟の「準加盟国(Estado Asociado a la Alianza del Pacifico)」を設定することに合意されたほか、非関税障壁の撤廃、財の移動の円滑化、地域における外国投資呼び込み等にも取り組むことに合意された。また、TPPやRCEP等との協力についても検討を進めていく意向が表明された。

#### イ 太平洋同盟とアジア・太平洋諸国とのハイレベル対話（15日）

15日、「アジア太平洋地域における統合イニシアティブに関するハイレベル対話：挑戦と機会」が実施された。ムニョス外相は、国際社会に大きな不透明感のある今、アジア太平洋地域の主要なパートナーが集まり、開放的な貿易への関心や、地域統合を重視する姿勢、保護主義に陥ることなく前進を目指すと

する我々からのサインを送ることが必要であり、これらの取り組みをとおして、繁栄や雇用創出が生まれ、全ての人への恩恵につながる旨述べた。

#### ウ ムニョス外相によるバイ会談

今般会合中、ムニョス外相は14日には越智内閣副大臣及び中川経産省大臣政務官、ビデガライ・メキシコ外相と会談を実施したほか、グアハルド・メキシコ経済大臣、マクレーンZ貿易大臣、チオボー豪州貿易・観光・投資大臣と懇談した。また15日には、藺浦外務副大臣と会談を実施した。

#### エ 藺浦外務副大臣らによるバイ会談

今般会合中、藺浦副大臣は「ム」外相に加え、オルギン・コロンビア外相、ラコトゥール・コロンビア商工観光大臣、バスケス・ペルー通商観光副大臣とバイ会談を行ったほか、越智内閣府副大臣、中川経産大臣政務官はグアハルド・メキシコ経済大臣及びマックレイNZ貿易大臣等とのバイ会談を行った。

### (2) バチエレ大統領とトランプ米大統領の電話会談

19日、バチエレ大統領はトランプ米大統領からの架電を受け、電話会談が行われた。会談において太平洋同盟、TPP、ベネズエラ及びラ米地域に関するテーマに言及された。ホワイトハウスのプレスリリースによると、「ト」大統領はベネズエラの状態に懸念を表明すると共に、両大統領は、貿易や安全保障での緊密な協力を含む二国間関係にも言及した。なお「ト」米大統領は、「バ」大統領との電話会談の前日にテメル伯大統領にも架電しており、米・伯両国の経済成長を共に推進することの重要性に合意したほか、ベネズエラの民主主義・人権を促進することの重要性等について協議した。

### (3) 対ボリビア関係

#### ア チリ領土内におけるボリビア人9名（軍人及び税関職員）の逮捕

19日、ボリビアとの国境沿いに位置する第1州（タラパカ州）コルチャネ市において、ボリビア人9名（軍人2名、ボリビア税関職員7名）が、同地域における恐喝を伴う窃盗の容疑等で逮捕された。チリ検察の説明によれば、チリ領土内で商品を搬送中だったトラック（運転手はチリ人）がボリビア人グループにより停車させられ、トラックを奪われそうになったところ、トラックの同乗者が車内から逃げ出し、チリ軍警察へ通報し、軍警察は右ボリビア人グループを逮捕した。なお逮捕時、9名は拳銃、弾薬、手榴弾、防弾チョッキ等の武器を所持していた。右9名は第1州アルト・オスピシオ市の留置所に収監されており、現在事件の捜査が進められている。

#### イ チリ外務省によるフェレイラ・ボリビア国防大臣への査証発給拒否

27日、チリ外務省は、19日にチリ第1州で逮捕されたボリビア人9名が収容されているアルト・オスピシオ留置所を訪問するため、外交査証の申請を行っていたフェレイラ・ボリビア国防大臣の査証発給を拒否した（注：本年初頭に外交査証免除のための二国間協定が廃止されたため、現在では二国間での政府要人等の往来の際には外交査証が必要）。「フェ」国防大臣は、逮捕された9名の弁護団と共に今後の対応について調整を行うために、右9名を訪問する意向を有していた。28日、チリ外務省は本件に関しプレスリリースを発出し、「フェ」国防大臣によるチリ政府及びバチエレ大統領に対する侮辱的な発言、またチリ製商品のボイコットへの呼びかけ等により、同国防大臣への外交査証の発給を行わない決定をしたことを表明した。

#### (4) バチエレ大統領の外国訪問

##### ア ハイチ

27日、バチエレ大統領はムニョス外相及びゴメス国防大臣とともにハイチを訪問し、モイーズ大統領と会談した。会談では、本年が両国の外交関係樹立80周年を迎えることや二国間関係について協議された。また、「バ」大統領はサンドレ・オノレ国連事務総長特別代表兼国連ハイチ安定化ミッション代表とも会談した。同会談後、「ム」外相とロドリゲ外相間で、両国間での初等・中等教育における（カリキュラムの）互換性承認に関するチリ・ハイチ間科学技術協力の基本協定への補足的合意に署名。その後「バ」大統領は、2004年からチリ軍が派遣されている国連ハイチ安定化ミッション（MINUSTAH）を訪問した。チリ軍は4月から撤退プロセスを開始する。

##### イ スイス訪問

3月28日、バチエレ大統領はスイスを訪問した（ムニョス外相同行）。滞在中に「バ」大統領は、ジュネーブ州政府ロンシャン首相主催の式典における演説、人権理事会特別会議への出席、アセドWTO事務局長らと会合等を行った。

##### ウ ポルトガル

（ア）30日、「バ」大統領はポルトガルを訪問した（ムニョス外相、セスペデス経済大臣、オットーネ文化大臣同行）。同日ソウザ・ポルトガル大統領との首脳会談が行われ、政治・経済・科学・文化の分野での協力深化、マゼラン海峡横断記念周年に関する意見交換、太平洋同盟、チリーEU関係等について協

議された。

(イ) 31日に行われた「バ」大統領とコスタ・ポルトガル首相との会談では、文化協力に関する協定への署名、両国における高等教育の学士資格の相互承認を実現するための二国間専門委員会の創設、ワーキングホリデー制度の創設に向けた趣意書の発表等が行われた。その他、ポルトガル国会議員との会合、企業セミナー、エヴォラ市長主催昼食会等が開催された。